企画展

木と共に生きる

ー木地屋 小椋榮一の仕事ー

会場フォトレポート

現在開催中の企画展「木と共に生きる －木地屋 小椋榮一の仕事－」の一部を写真でご紹介します。

会場に入ってまず目に飛び込むのは、直径134cmのケヤキの丸卓。これは、ろくろで挽くことのできる最大級の大きさだそうです。大きな作品をつくるには、高度なろくろの技術を要するのはもちろん、大径木を木取り、割れないように乾燥させる知識と技術が必要です。この作品は何と20年以上もの年月をかけて、ゆっくりと乾燥させながら、ろくろで挽いていったそうです。

作品の樹種はトチ、キハダ、タモ、セン、ケヤキ、神代ケヤキ。その木目の美しさに思わず見入ってしまいます。小椋榮一氏の作品のほとんどは、木目を美しく引き立てる「拭き漆」という技法で仕上げられています。

「木の器をつくる」コーナーでは、木地を製作する道具をご覧いただけるほか、製作工程を写真とともにパネルで解説しています。このほか、木地屋の歴史についてのパネル展示、文献資料、小椋榮一氏の愛用した品や直筆の手紙などを展示しています。
小椋榮一氏の作品の数々、挽物の製作技術と道具、木地屋の歴史などを紹介した貴重な機会ですので、ぜひご来場ください。